

北方建築総合研究所 NEWS LETTER

北方かわらばん

Mail Magazine VOL. 23 2011/07/07

「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所（旧・北海道立北方建築総合研究所）が発行しているメールマガジンです。

ホームページ等で配信登録された方にお送りしています。

アドレスを登録した覚えのない方、登録内容の変更、配信停止は【管理者からのお知らせ】をご覧ください。このメールアドレスは配信専用のため、返信できませんのでご了承ください。

※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。

=====
今月号のトピックス
=====

第23号の内容はこちらです。

■新しいスタッフから一言

■イベントのお知らせ

- 来て☆見て☆はっけん！ほくそうけん公開デーを開催します
- 調査研究発表会（札幌）を開催します

■研究紹介「発泡プラスチック断熱材を用いた木造壁体の防耐火性能」

■最近の研究所の動き

- 日本建築学会北海道支部第84回研究発表会で研究成果を発表しました
- 日本雪工学会の学術賞を受賞しました
- 東日本大震災に係る災害復興支援情報の提供（その2）
- 発表論文と学会発表
- 6月の業務報告

■北総研からのお知らせ

□構造計算適合性判定センターから

=====
新しいスタッフから一言
=====

6月1日付けで構造計算適合性判定センターに発令されました塚原です。
今回、アクシデント（！）により着任が遅れ、13日から勤務しております。

これまで、道の建築指導課において「建築主事の一人」として、当センターに判定をお願いする側にいましたが、このたび、立場が逆転し、道内の各特定行政庁や指定確認検査機関などの皆様方のお世話になることになりました。改めましてどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今のセンターの状況ですが、時はまさに1年の最盛期を迎え、途切れることなく全道から送り込まれてくる物件に悲鳴をあげながらも、法定審査期間を遵守するという使命感のもと、連日のオーバーワークにも屈せず、着実に処理を進めていく我が「少数精鋭」の専門集団を非常に頼もしく感じています。

私としては、北総研での勤務は初めてになりますが、「日々是勉強」という思いを忘れず、この新しいスタッフと一丸になって、出遅れた分も含めて頑張っ
てまいりますので、何卒ごひいきのほど重ねてお願いいたします。

(構造判定部長 塚原淳)

=====
イベントのお知らせ
=====

■【来て☆見て☆はっけん！ほくそうけん公開デーを開催します】

平成23年7月30日（土）10時～16時、北方建築総合研究所において施設公開「来て☆見て☆はっけん！ほくそうけん公開デー」を開催します。

今年度も道総研の上川管内3機関（林産試験場、北方建築総合研究所、上川農業試験場）の3週連続リレー開催となります。

北方建築総合研究所では、建築を楽しく学び体験できる12の常設体験・展示コーナーに、毎年大人気の「コンクリート小物づくり」、親子で参加出来る

「クイズ大会」、「ラボ☆たんけんたい」など、盛りだくさんの内容で開催します。

たくさんの皆様のご来場をお待ちしております。

詳しくはこちらをご覧ください。

<http://www.nrb.hro.or.jp/120730koukai.html>

(企画課 神田)

■【調査研究発表会（札幌）を開催します】

北総研は毎年秋に札幌市で研究成果を中心とした発表会を行っております。

本年は下記の日時・場所で開催いたします。

参加申込、プログラム等はメルマガ増刊号などで後日お知らせいたします。

開催日 平成23年9月8日（木）

開催場所 札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ

(企画課 伊藤)

=====
研究紹介 「発泡プラスチック断熱材を用いた木造壁体の防耐火性能」
=====

発泡プラスチック断熱材は、高い断熱性能を持ち、施工もしやすく、熱橋をつくらない外張用断熱材として北海道では広く使われております。一方で、可燃物であるため、火災を考えると、壁体内に用いることに根強い不安があります。では、実際のところ、木造壁体に発泡プラスチック断熱材を用いた場合、断熱材は壁体の防耐火性能にどのような影響を与えるのでしょうか？

防耐火性能と言っても、遮熱性、遮炎性、非損傷性の大きく3つの性能が求められます。遮熱性、遮炎性というのは、熱や炎をちゃんと遮る（通さない）ようにする性能で、非損傷性は、火災時にちゃんと壁を保持する性能です。木造壁体に発泡プラスチック断熱材を用いた場合、可燃物が増えるわけで、当然、火災の時は壁の中は激しく燃えるだろうから、熱や炎を通し、壁を倒壊させる危険性は高まるはずだという考え方があります。

もう一方で、可燃物と言っても断熱材なんだから、たとえ燃えるとしても存在している間は、火災の熱や炎を防いでくれるはずだし、壁を支える柱、間柱に対しても、被覆の効果が多少なりにあって、火災の安全性はさほど損なわれな

いのではないだろうかという考え方があります。

ではどちらの考え方が正しいのでしょうか？

実はまだはっきりした答えが出ておりません。

そのため、壁体開発を行う企業は、その都度、毎回、実際の壁を燃やして安全性を確認せざるを得ず、大きな負担となっております。

私はこの問いの解明に向けて、日夜、壁を燃やしております。

(環境G 糸毛)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【日本雪工学会の学術賞を受賞しました】

居住科学部主査（雪・くらしデザイン）の堤が、平成23年度日本雪工学会学術賞（業績名：建築物を対象とした雪対策に関する一連の研究）を受賞しました。

北総研では、建築物と風雪の関係や、積雪に対する建築物や人々の安全性などの研究を行っており、堤はこの研究分野を担当しています。

今回の受賞はこれらの研究業績が独創的なものであると認められたもので、9月19～23日に、長岡市で開催される雪氷研究大会（2011・長岡）において受賞講演が予定されています。

(企画課 伊藤)

■日本建築学会北海道支部第84回研究発表会で研究成果を発表しました

去る7月2日、札幌市立大学芸術の森キャンパスにおいて、日本建築学会北海道支部第84回研究発表会が開催されました。道内外から昨年より約20編多い162編の論文の投稿があり、6つの会場に分かれて、発表・討論を行いました。北総研からは35編（共著を含む）を投稿し、19名の職員が発表を行いました。

今年初めての取り組みとして、主に学生の発表者を対象とした「優秀講演奨励賞」の表彰が試行的に実施され、北総研の職員も何名かが選考員として採点に加わりました。そのため、発表するほうも聞くほうも、例年とは異なる緊張感のある発表会となったように思います。

依頼試験	16件	累計	39件
設備使用	2件	累計	10件
性能評価	1件	累計	4件

□施設見学（担当：企画課）

件数	3件（累計 14件）
人数	14名（累計195名）

□技術相談（担当：企画課）

件数	16件（累計 63件）
----	-------------

※累計は、平成23年4月～平成23年6月の累計を表示しています。

=====
北総研からのお知らせ
=====

■【構造計算適合性判定センターから】

□6月の判定業務

受付	38件（44棟）
結果通知	45件（62棟）

6月の判定依頼は、共同住宅6件、工場等6件、店舗5件、児童福祉施設等5件の他、事務所、学校等でした。

総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均は37.1日、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均は11.9日でした。

建物の「構造計算書」って、見たことがありますか？鉄筋コンクリート造や鉄骨造の建物では、結構なボリュームの構造計算書ができあがり見応え十分ですが、中身は数表だらけでなんだかよくわからないかもしれません。しかしこれを読み解くと、構造設計者がどんな考え方で設計を進めようとしたのか、設計者の哲学のようなものが見えてくる興味深いものともなります（・・・全部ではないのですが）。

7月30日（土）の「来て☆見て☆はっけん！ほくそうけん公開デー」では、この構造計算書を見ることができます。それぞれの計算にはどんな意味があるのか、構造計算書偽装事件で有名になった「保有水平耐力比が1以上」とはどういうことか、どうやって偽装をするのか（？）などがわかる・・・かもしれません。

7月30日にはぜひ、判定センターのコーナーをのぞいてみてください。

的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：(地独) 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所